チャレンジ！
オープンガバナンス2025
（COG2025）
その意義と課題

キックオフイベント

2025年6月22日

COG2025キックオフプログラム概要

https://ogn.or.jp/cog/522/

1．開会：13:00～13:10　進行・平田

① 開会あいさつ：COG審査副委員長 宇野重規
② 本日のプログラム説明：COG事務局長 奥村裕一

2．COG審査委員などによる「COG2025への期待－みなさまへのメッセージ」 13:10～13:50　進行・平田

COG全般：宇野重規、川島宏一、神原咲子、澁谷遊野、庄司昌彦 13:10～13:25
探究学習：庄司昌彦（武蔵大学） 13:25～13:35
エバンジェリスト（多田功・元加古川市役所、斎藤直巨・中野区グローハッピー）からの期待 13:35～13:40
オンライン参加者とのやり取り 13:40～13:50

3．COG2024参加受賞チームと自治体の経験に学ぶ　進行:阿部由紀江（COG2016連携体制賞自治体） 13:50～14:45

＜各チームと自治体で5分ほど発表の後審査委員などを交えたダイアログ＞

賞	チーム：自治体	発表と対話
① 総合賞（兼ハーバード賞）	D-attend：東京都中野区	13:50～14:00
② アイデア賞	庄内BACE：山形県鶴岡市	14:00～14:10
③ 連携体制賞	Zenith-Mind：愛媛県松山市	14:10～14:20
④ 学生賞	本庄123：埼玉県本庄市	14:20～14:30

＜自治体と市民学生グループのマッチングのやり方と協働の実践プロセス＞
以上4チームのやり取りをふまえた深掘りの意見交換 14:30～14:45
オンライン参加者と状況に応じてQ＆Aあり

4．COG2025　検討中のAIボットβ版：高木、阿部、平田、遠藤、奥村 14:45～15:00　オンライン参者と状況に応じてQ＆Aあり

総合司会：平田祐子（COG2016総合賞自治体）

COG審査委員会

審査委員長
　　城山 英明（東京大学未来ビジョン研究センター長　公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授）
審査副委員長
　　宇野 重規 （東京大学社会科学研究所教授）
審査委員（五十音順）
　　大橋 弘　 （東京大学副学長　大学院経済学研究科教授）
　　川島 宏一 （筑波大学システム情報系社会工学域教授）
　　神原 咲子 （神戸市看護大学看護学部教授）
　　国谷 裕子 （東京芸術大学理事）
　　澁谷 遊野 （東京大学大学院情報学環准教授）
　　庄司 昌彦 （武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）
　　関本 義秀 （東京大学空間情報科学研究センター教授）
　　渡辺 美智子 （立正大学データサイエンス学部教授）

　　運営コーディネーター
　　奥村 裕一 （社）OGN代表理事　元東京大学公共政策大学院客員教授

本日参加の審査委員紹介

宇野 重規　（東京大学社会科学研究所教授：COG審査委員会副委員長
川島 宏一　（筑波大学システム情報系社会工学域教授）
神原 咲子　（神戸市看護大学看護学部教授）
澁谷 遊野　（東京大学大学院情報学環准教授）
庄司 昌彦　（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

エバンジェリスト紹介

多田 功　COG2021総合賞受賞チーム連携自治体：元加古川市役所・現TIS（株）など

斎藤 直巨 COG2016総合賞受賞チームリーダー：中野区（一社）グローハッピー

COGについて

COG事務局

次世代の社会をつくる
オープンガバナンス

- モット――
- 市民も変わる
  - 地域のことは自分ごと
- 行政も変わる
  - 市民のプラットホームパートナー
- オープンガバナンス
  - 市民と行政の共創サービス

永遠のベータ版

- アイデアに磨きをかける3D
- データ分析と見える化
  - 社会の実相の確認と裏付け
- デザイン思考
  - 当事者の心を知る共感が原点
- デジタル技術
  - 21世紀の起爆剤をうまく使う

SDGsにも貢献

事務局資料

オープンガバナンスは
共創型公共サービスの創出です！

市民も主役
（Engaged citizen）

- 地域課題の解決を自分ごととして未来をつくる市民となります
- 学生は経験を積んでこのような市民として育ちます

行政も主役
（Open government）

- 地域の専門家として市民のパートナーとして取り組みます
- オープンデータはデジタル時代のデータ共有形式です

共創型公共サービス
（Open governance）

- 市民・行政・企業等の関係創造で地域の豊かさを向上します
- 多様な主体で課題をオープンにガバナンスしていきます
- 裃を脱いで率直に対話するアゴラの創出を目指します

COG2025のプロセス

STEP1（いまここ）	STEP2	STEP3
自治体からの 課題募集 （2025年6月～8月）	市民／学生の 解決アイデア募集 （2025年9月～12月）	最終公開審査と 改善アドバイス （2026年1月～4月）
COGによる協働の始まり 市民目線で課題を発掘し 関連の公開データと共に 地域の課題をエントリー	アイデアに磨きをかける3D データで事実を知り デザインで人を知り デジタルを活用する	アイデアの実現目指して 小さい第一歩を踏み出す 持続と発展を視野に入れ その基礎をかためる

COGはこれまで9回

- 参加自治体は91（次頁）
- 市民・学生チームは544

実績

参加自治体一覧

1 札幌市	11 太田市	21 文京区	31 宮前区	41 三島市	51 京都市	61 神戸市	71 生駒市	81 福岡市
2 室蘭市	12 熊谷市	22 品川区	32 鎌倉市	42 掛川市	52 大阪府	62 長田区	72 倉敷市	82 小城市
3 森町	13 本庄市	23 目黒区	33 真鶴町	43 裾野市	53 大阪市	63 須磨区	73 広島県	83 玉名市
4 八戸市	14 春日部市	24 世田谷区	34 新潟市	44 菊川市	54 東淀川区	64 姫路市 ※	74 宇部市	84 日南市
5 仙台市	15 深谷市	25 中野区	35 石川県	45 牧之原市	55 阿倍野区	65 西宮市	75 高松市	85 那覇市
6 鶴岡市	16 松戸市	26 多摩市	36 金沢市	46 豊橋市	56 東住吉区	66 豊岡市	76 松山市	86 西原町
7 南陽市	17 茂原市	27 西東京市	37 鯖江市	47 大津市	57 住之江区	67 加古川市	77 八幡浜市	
8 会津若松市	18 流山市	28 神奈川県	38 越前市	48 長浜市	58 豊中市	68 宝塚市	78 久万高原町	
9 水戸市	19 千代田区	29 横浜市	39 静岡市	49 近江八幡市	59 枚方市	69 高砂市	79 土佐町	
10 鹿沼市	20 港区	30 金沢区	40 浜松市	50 草津市	60 東大阪市	70 三田市	80 北九州市	

（※）姫路市・福崎町・市川町・神河町・朝来市・養父市の地域連合り

COG実施体制

- 共催（共同主催）
- 東京大学公共政策大学院　科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」教育・研究ユニット（STIG）
- 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）
- （一社）オープンガバナンスネットワーク（OGN）
- 連携
- Roy and Lila Ash Center for Democratic Governance (the Ash Center) at the John F. Kennedy School of Government at Harvard University
- 協賛（実績）
- LINEヤフー株式会社
- （一財）日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）
- 後援
- デジタル庁、内閣府、（一社）行政情報システム研究所、（一財）地域活性化センター、（一社）Code for Japan、（一社）オープン・ナレッジ・ファウンデーション・ジャパン、（一社）オープン・コーポレイツ・ジャパン

再掲

COG審査委員会

審査委員長
　城山 英明（東京大学未来ビジョン研究センター長　公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授）
審査副委員長
　宇野 重規 （東京大学社会科学研究所教授）
審査委員（五十音順）
　大橋 弘　（東京大学副学長　大学院経済学研究科教授）
　川島 宏一 （筑波大学システム情報系社会工学域教授）
　神原 咲子 （神戸市看護大学看護学部教授）
　国谷 裕子 （東京芸術大学理事）
　澁谷 遊野 （東京大学大学院情報学環准教授）
　庄司 昌彦 （武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）
　関本 義秀 （東京大学空間情報科学研究センター教授）
　渡辺 美智子 （立正大学データサイエンス学部教授）

運営コーディネーター
　奥村 裕一 （社）OGN代表理事　元東京大学公共政策大学院客員教授

COG2024の振り返り

- 参加自治体：46
- 市民・学生応募チーム：100
- 参加者数：540

→

- 市民チーム：10
- 混成チーム：10
- 学生チーム：90

１．COG全般：宇野、川島、神原、澁谷、庄司各委員　13:10～13:25（各5分）
２．探究学習：庄司委員　13:25～13:35
３．エバンジェリスト：多田、斎藤　13:35～13:40（各2～3分）
４．オンライン参加者とのやり取り 13:40～13:50

２．参加審査委員などによるメッセージ
「COG2025への期待」

宇野重規、神原咲子、川島宏一、澁谷遊野、庄司昌彦、各委員から（進行：平田祐子・中野区）

COGに期待すること

参加をご検討中の自治体へのメッセージ

参加をご検討中の市民／学生へのメッセージ

庄司昌彦委員から　探究学習への取組
（進行：平田祐子・中野区）

COGでの探究学習

参加をご検討中の自治体へのメッセージ

参加をご検討中の先生へのメッセージ

エバンジェリスト・多田功氏、斉藤直巨氏から（進行：平田祐子・中野区）

COGへの参加経験を踏まえて

参加をご検討中の自治体へのメッセージ

参加をご検討中の市民／学生へのメッセージ

COG2024
受賞チームと自治体の経験に学ぶ

COG2025キックオフイベント

2025年**6**月**22**日（日）
進行：阿部由紀江（新潟市）

プログラム

賞	チーム：自治体	発表と対話
① 総合賞 （兼ハーバード賞）	D-attend：東京都中野区	13:50～14:00
② アイデア賞	庄内BACE：山形県鶴岡市	14:00～14:10
③ 連携体制賞	Zenith-Mind：愛媛県松山市	14:10～14:20
④ 学生賞	本庄123：埼玉県本庄市	14:20～14:30

（注）発表は各5分で残りは審査委員有志や他の参加者との対話です

D-attend
（中野チーム）

- **総合賞　中野**
- **13:50～14:00**

- **発表：5分**
  滝沢さん（リーダー）、
  平田さん（自治体）
- **対話：5分**

地域コミュニティに眠る、高齢者の生活/健康情報を デジタル化し活用する。

『彩色 -生活カルテ』

WHAT?

彩色 -生活カルテとは、地域高齢者の生活歴をみんなで記録するしくみ

特徴①コミュニティ受付機能
高齢者に**彩色カードを配布**。コミュニティの受付時に、出欠と簡単な体調質問を共用アプリに記録。

特徴②異常発見アシスト＆連絡機能
体調申告や出欠の変化、管理者のメモから特に注意が必要な高齢者をハイライト。
→ワンクリックで関連機関へ相談。

WHY?

中核課題

生活期高齢者の生活/健康状態の変化に気づき、**早期に関係機関に繋ぐアクターが地域に不足**

（医療福祉・行政関係者、高齢者へヒヤリング500件より）

起こしたい変化

自分では相談しづらい高齢者の異変に周囲が気づき、医療介護のハブである包括支援センターを繋げる

▼

早期対応の件数の増加へ

ヒヤリング結果の概略図

HOW?

①ユーザーテスト ▶ ②効果を検証 ▶ ③改善・規模拡大

2025年2月～
中野区複数コミュニティで受付アプリをテスト予定

高齢者や管理者にとって使いやすいか？

メモで蓄積したデータから異変が推測できそうか?

関係スタッフにデータ提供することが早期対処につながるか?

他のコミュニティも巻き込み可能か?

新たなコンテンツにつながることで、高齢者活動参加の行動が起こるか?

東京都中野区 × D-attend

庄内BACE
（鶴岡チーム）

- **アイデア賞　鶴岡**
- **14:00～14:10**

- **発表：5分**
  渡会さん（リーダー）、
  畔上さん、
- **対話：5分**

食文化×サイエンス×観光

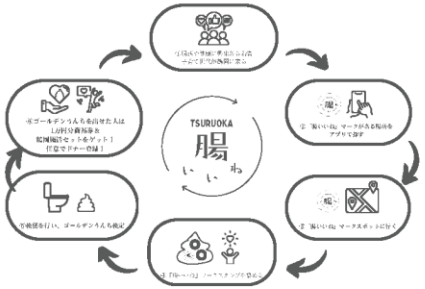
『つるおか腸いいね！project』

腸いい街、つるおか市へ。

庄内BACE　鶴岡市×山形大学×慶應義塾大学×東北公益文科大学　学生チーム

【プロジェクト概要】

鶴岡の魅力である
「食文化」と「サイエンス」を融合させ、
「腸活」の視点から鶴岡市をリブランディング。
鶴岡の飲食店や観光地、温泉地と協力して設置した「腸いいねマークを巡ることで観光客と地域住人が楽しく腸活ができる街を目指す。
また、「ゴールデンうんちチャレンジ」を企画し、新たな旅の形「ドナーツーリズム」を提案する。



【実現までのタイムライン】

2025年
3月：プレツアーの準備
4月：プレツアー/プロジェクト案を改善・仲間集め
5月～8月：各企業や地域コミュニティとの連携
9月～10月：社会実験
12月：改善案を考える

2026年
1月：プロジェクト一般公開
3月：実証前のイベントを開催
4月：実証化へ

【プロジェクト背景】

1. 鶴岡市は「ユネスコ食文化創造都市に認定されており、在来作物や精進料理、家庭で受け継がれてきた伝統的な食文化が魅力である。しかし、観光産業においてその価値が十分に発信されておらず、県外の方に浸透していない。

2．鶴岡市には「サイエンスパーク」という世界が注目するベンチャー企業が集まる施設がある。しかし、地域住人との関わりが薄く、住人に価値が知られていないのが現状である。

【目標】

2026年まで、参加人数1000人を目標とし、
プロジェクトを進めていく

学生と地域が連携し、観光客だけでなく、地域住民にとっても楽しいプロジェクトを目指す

【実現主体】

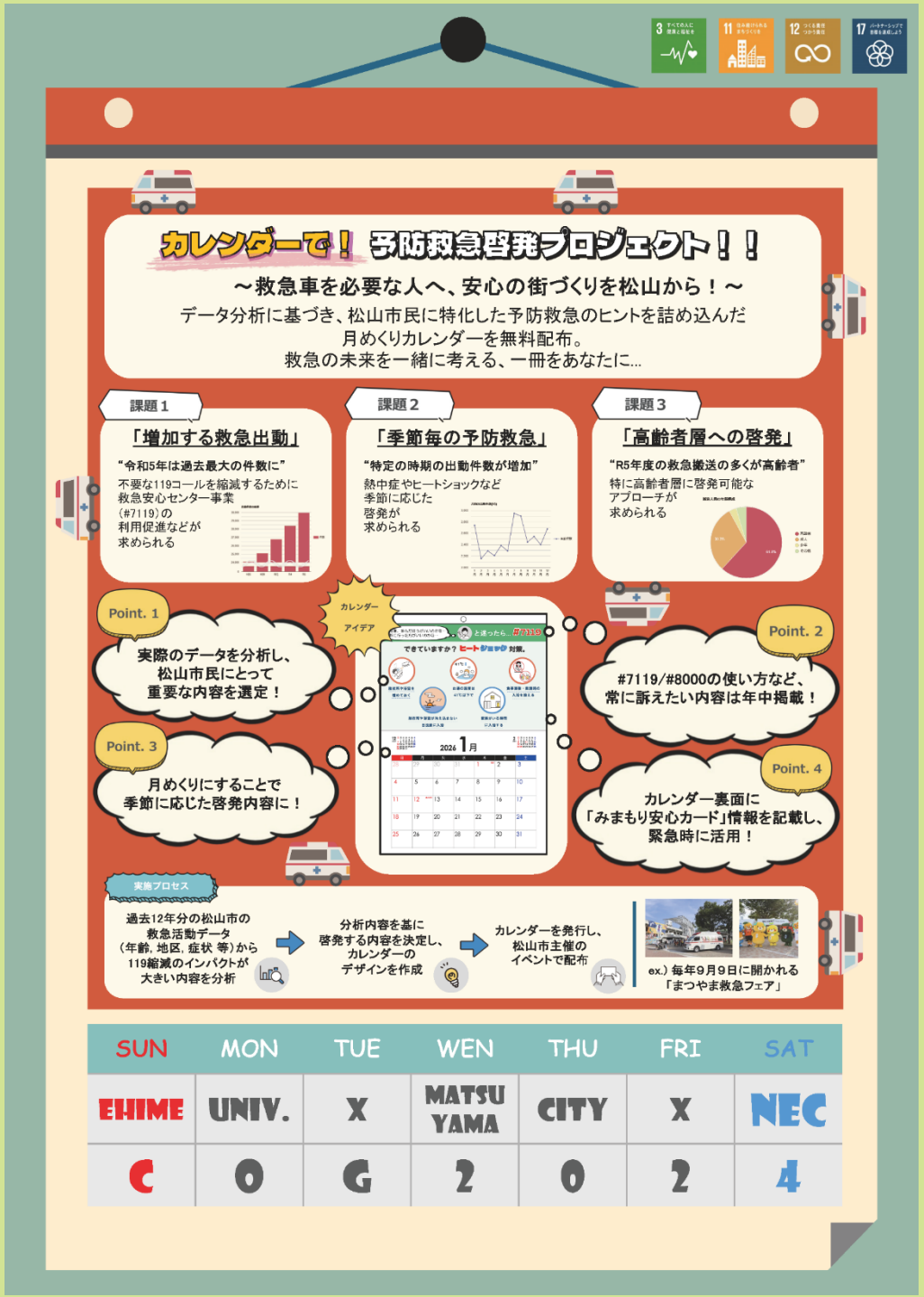
1．山形大学(農学)
2．慶應義塾大学(バイオ)
3．東北公益文科大学(観光まちづくり)

～３大学の有志が連携し、鶴岡を腸いい街へ～

Zenith-Mind
（松山チーム）

- 連携体制賞　松山
- 14:10～14:20

- 発表：5分
  平本さん（リーダー）、
  北岡さん（自治体）
- 対話：5分



本庄123
（本庄チーム）

- 学生賞　本庄
- 14:20～14:30
- 発表：5分
  秋山・金井・丸山さん（チーム）、高柳さん（自治体）
- 対話：5分

高校生と行政、地域の連携による、自分が主体の幸せなまちづくり

本庄123 → 埼玉県本庄市

新 七高「祭」

七高祭 × 本庄祇園まつり

既存の七高祭の仕組みの良い部分と、本庄市の伝統行事である祇園まつりを掛け合わすことで、本庄市内の高校に通う高校生が地域の人との関わりや思い入れを増やし、本庄市に青春時代の居場所を創出することを期待する。
また、本庄祇園まつりが抱える担い手不足の現状の解消に貢献する。

祭りの熱狂の中で主役的体験をしてみたい！

七高祭

本庄市内の６つの高校に通う高校生が学校や学年の垣根を越えて集まり、一年をかけて行政や地域の方に伴走していただきながら、本庄市内の課題解決ややってみたいことに挑戦するプロジェクト

×

本庄祇園まつり

361年の歴史をもち
毎年海の日の直前の土日に開催される。
「台町の獅子の奉納舞」や「各町の神輿の巡行」は見どころである。

七高祭活動様子　写真右秋山

心湧きたつ体験

地域や人との深い交流

なんと

本庄市内の高校は６校
そして七高祭がある

けど

「本庄市内の高校に通う高校生の本庄市への愛着がまだまだ低い！」

（愛着度平均5.4独自調査）

本庄市の祭りが熱い！

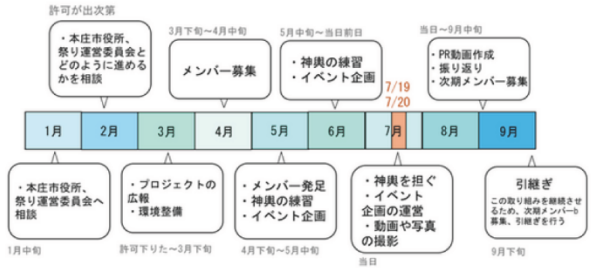
けど

「担ぎ手、担い手不足」

〈どんなアイデア？〉

アイデア	だれ	いつ	どのように
高校生が本庄祇園まつりで主役的関わりをする。	本庄市内の高校に通う高校生	本庄祇園まつり当日 まつりの1, 2か月前後	・本庄祇園まつりの企画、運営 ・神輿を担ぐ ・屋台の出店 ・PR動画作成 ・PR　等
	だれ 本庄祇園まつり関係者	どこで 本庄祇園まつり会場 本庄市役所	

〈アイデア実現までの流れ〉



COG事務局まとめ（仮）

事務局要約

チーム側：印象に残っていること・苦労したこと・よかったこと

項目	内容の概要
① チームづくり	- 異なる大学や学年を超えた連携 - 毎週のミーティングなどで一体感を醸成 - 得意分野を活かして負担を分担
② アイデアづくり	- 実データや現場の課題感を重視 - 独創的な発想を大切にし、自由な発想に注力 - ストーリー構築や共感性ある企画に苦戦することも
③ 自治体との関係づくり	- 対面議論や現場訪問による理解促進 - フレンドリーな対応に支えられ自由な発想が可能に - 人事異動で関係づくりが再び必要になるケースも
④ 今後の展開（構想）	- 提案の社会実装、全国展開を志向 - 実証実験やカレンダー配布などの具体化 - 体験（例：祭り参加）を起点に継続的な活動へ発展
⑤ 特筆すべき印象・気づき	- 「神輿を担ぎたい」など何気ない発言から広がる発想 - 地域と向き合うことで自身の暮らしの見直しや気づきが生まれる

事務局要約

【チームからのメッセージ】

- 小さなアイデアも自治体との協働で大きな社会変革につながる。
- 自分の地域を愛し、その中の原石を磨いてほしい。
- 自治体課題に向き合う経験は非常に意義深い。
- 自分の地域と関わることで学校生活にワクワクが加わる。
- 地域に関心の薄い学生にこそ挑戦してほしい。

事務局要約

自治体側

項目	内容の概要
① 課題提出時の工夫	- 学生にとって関われる・支援しやすいテーマを選定 - 課題の魅力化(例：付加価値や地域参加の意義を重視) - 「高校生」など明確なターゲット指定
② 市民・学生との連携体制づくり	- OBや大学教員など中核人材の継続的関与 - 現場見学や初期からの関係部署職員の巻き込み - LINE/Zoomなどを使った柔軟なコミュニケーション
③ 実施・運営時の工夫	- 通信指令室の見学などリアルな体験提供 - 意見交換の場を通じた自治体と市民の垣根の除去 - 自由な発想を自治体が尊重・支援
④ 成果や効果の確認	- 提案が新たな実証や市の施策に波及(例:うんちツーリズム) - 実際の実装(予防救急カレンダー配布など) - まちの人との化学反応が生まれる効果も
⑤ 今後の展望	- 一過性でなく継続的な協働体制の構築を目指す - 「市民主体のまちづくり」を支援する組織でありたい - 学生の提案を積極的に取り入れる文化を促進

事務局要約

【自治体からのメッセージ】

- COGは市民と行政の距離を縮め、協働の第一歩となる。
- 自由なアイデアを一緒につくることがCOGの醍醐味。
- 行政職員が「総合プロデューサー」として輝ける貴重な場。
- 学生との協働は新たな視点をもたらし、仕事にも活力を与える。
- 想定外の企画や新たな出会い・化学変化が生まれるチャンスになる。

COG事務局作成共通メッセージ:「一歩踏み出すことから始まる変革」

チーム側：最初は地域への愛着や興味が薄くても、参加することで新たな発見と成長機会が得られる

自治体側：完璧な準備よりも、まず参加することで様々な変化が動き出すきっかけになる

双方とも：すなおな態度でお互いに向き合い、「一緒に考える」姿勢から協働の第一歩が始まる

自治体と市民学生グループのマッチングのやり方と協働の実践プロセス

以上4チームのやり取りをふまえた深掘りの意見交換
14:30～14:45

COG2025の進め方
AI先生と共に

ベータ版です　お試し下さい

自治体と市民・学生との連携

（進行：奥村、高木）

14:45～15:00

COG2025のプロセス

STEP1（いまここ）	STEP2	STEP3
自治体からの 課題募集 （2025年6月～8月）	市民／学生の 解決アイデア募集 （2025年9月～12月）	最終公開審査と 改善アドバイス （2026年1月～4月）
COGによる協働の始まり 市民目線で課題を発掘し 関連の公開データと共に 地域の課題をエントリー	アイデアに磨きをかける3D データで事実を知り デザインで人を知り デジタルを活用する	アイデアの実現目指して 小さい第一歩を踏み出す 持続と発展を視野に入れ その基礎をかためる

STEP1 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2025/#municipalities
STEP2 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2025/#citizens
STEP3 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2025/#advices

STEP1　自治体からの課題応募（8月末〆切）
課題をどのようにして見つけるか

- 市民目線と行政目線の違い
  - 供給者目線とユーザー目線（市民目線）
- 市民目線で課題を見つける

市民目線で課題を見つける

- しばしば役所内では気づいていない課題が多い
- この気づきのためには
  - 自分自身が市民目線になってみる
  - いくつかの市民グループからのヒヤリングやワークショップを開く
    - フランクに本音を出せる信頼関係があればやりやすい

STEP1　自治体からの課題（8月末〆切）
どんなデータが必要か

- 市民がアクセスできる公開データや情報
- オープンデータ　統計　調査結果　報告書　計画等
- オープンデータ形式以外でも公開してあればOK

STEP1　自治体からの課題
関連データ付き公表

- 課題名
  - 30字以内　キャッチフレーズ
- 課題分類　複数チェックOK
- 問題意識
  - 500字以内　わかりやすく

◦担当課（実績）

◦<u>COG担当課（自治体判断）</u>

◦企画系、市民系、デジタル系、広報系

◦<u>個別業務課</u>

✓<u>両者の共同参加期待</u>

COG2025ウェブサイトで一括公表（9月中旬）

STEP2　市民・学生のアイデア生成（12月20日〆切）

市民・学生の出番

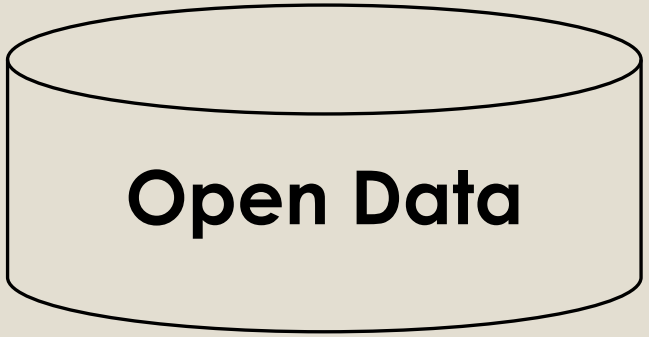
- 社会の現実をよく知る
- 目標：あったらいいね！
- ３D活用：✓必須、〇状況次第
  ✓データ分析で課題の傾向を知る
  ✓デザイン思考で課題当事者の心を知る
  〇デジタル技術でアイデアを磨く

自治体はサポート役

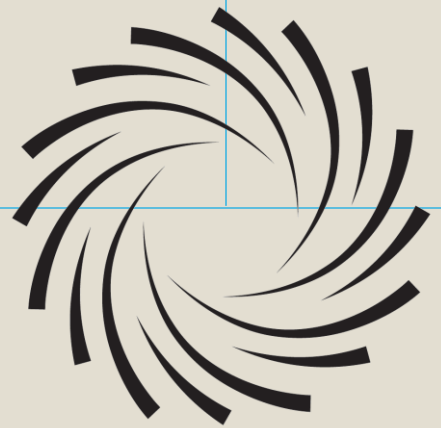
- 地域の課題の解説
- 既存の制度や仕組みの解説
- 関連データの解説
- 作業の進め方アドバイス

事務局資料

課題の流れを読む
データ分析（必須）

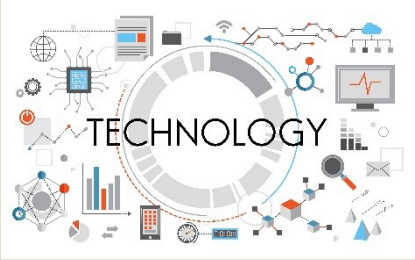


人の心を読む
デザイン思考（必須）



３Ｄ

人の活動を支援する
デジタル技術（状況次第）



活用

デザイン思考のポイント

１．相手に共感する	３．未来から発想する
２．相手と協働する	４．実践を振り返る

共感はアダムスミスから始まる
国富論だけでは片肺飛行
道徳感情論の共感
「投影的共感」

事務局資料

アイデアづくりから応募までの作業の進め方サンプル

- **ステージ1／根底の課題とニーズの抽出（ツール：データ分析とデザイン思考）**
  - データや資料を活用して課題を分析し、デザイン思考による共感で課題の掘下げをして、根底の課題抽出をします。
- **ステージ2／アイデアづくり（ツール：デザイン思考）**
  - 掘り下げた課題を解決する具体的なアイデアの生成をグループワーク・ワークショップで行います。アイデアを練るため繰り返しの机上テストも良いでしょう。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。
- **ステージ3／応募の仕上げ（ツール：論理思考）**
  - こうして出来上がったアイデアについて、実現性チェックつまり実現可能性の確認をし、ストーリーを意識して、①アイデアの内容、②データによるアイデアの理由づけ、③実現までの流れをまとめてください。応募用紙はこの流れになっています。

事務局資料

STEP3 と アイデアの実行

STEP3

- 一次審査　1-2月
  - アイデア書類審査
- 最終公開審査イベント　3月
  - ファイナリスト審査と表彰
  - セミファイナリスト投票
  - ポスター展投票
  - 協賛団体賞

実行に至る壁

アイデアの実行

- ファイナリスト改善アドバイス　4月
- 自立への道
  - リーダーのコミット
  - 自己収入と資金繰り
  - 柔軟に進化するアイデア
  - 開放的な取り組み

事務局資料

補足

オープンガバナンス
の推進の場の実現

- COG事務局

事務局資料

地域アゴラ（自然なポリティの場）が生まれていく

変わる市民

地域のことは自分ごと

変わるNPO

自分も一市民

変わる企業

自分も一市民

地域アゴラ

社会のウェルビーング向上

変わる行政

企画と現場の連携
地域のプラットフォーム

事務局資料

AIが描くアゴラのイメージ

https://stablediffusionweb.com/

事務局資料

アゴラでの共創的意思決定と実行

- 水平的共創的意思決定プロセス
- 自分の立場にこだわらずかみしもを脱ぐ
  - 立場を入れ替えてみる経験が有効
- ソーシャルキャピタルを醸成する・・・
  - ネットワーク
  - 相互信頼
  - 共通規範
- 利害関係者を切り盛りする能力
  - 入口（課題発見）から出口（アイデアの実行）までカバーできるスチュワードを育てる
  - 当事者への共感をベースにする
  - 時にはデータ（事実）に聞く
- 原点に立ち返る
  - 社会のウェルビーング向上
  - 専門家は科学的専門知識提供

事務局資料

地域アゴラ
公共サービスエコシステムを育む土壌

地域アゴラ成功のカギ

ソーシャルキャピタルを醸成する・・・
・ネットワーク
・信頼
・規範

各地で地域アゴラの具体例を探していきましょう

地域アゴラからPSEが生まれます

地域アゴラは各地域で複数あってよいです

地域アゴラjは、市民・学生云々と行政の立場の違いを意識しつつも、心理的な距離を取り除いて、地域社会のためにどう協働ができるかの土壌となります

このため一旦**かみしもを脱いで**（肩書を一旦わきにおいて）みな地域の一市民になって共通のウェルビーングを求めましょう